

羽村市理科部研究報告

研究テーマ：主体的・対話的で深い学び

～見方・考え方を働かせた理科の授業～

I 主題設定の理由

新学習指導要領では、教科の指導に当たって、知識および技能が習得されるようにすること、思考力、判断力、表現力等を育成すること、学びに向かう力、人間性等を涵養することが実現されるよう、児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うこと、その際、教科の「見方・考え方」を働かせた学習過程を重視して充実を図ることが示されている。「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」ということである。教科の特性の応じた「見方・考え方」を、習得・活用・探求という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげていくことが重要である。そこで、本研究では、理科指導における児童・生徒の「主体的な学びの姿」「対話的な学びの姿」「理科の見方・考え方を働かせた深い学びの姿」を想定した授業を実践し、指導の手だてを追求することとした。

II 研究の成果と課題

- 1 成果 教師の姿 ○講演を通じて、理科で働かせる「見方」や「考え方」について整理することができた。
○「主体的な学びの姿」「対話的な学びの姿」「理科の見方・考え方を働かせた深い学びの姿」と具体的な児童・生徒の学習活動の様子を想定した指導案づくりができた。
児童・生徒の姿 ○教師の意図的・計画的な働きかけにより、観察や実験結果の整理・分析したことを根拠に解釈や考察をしたり、説明したりする姿が見られるようになった。
- 2 課題 教師の姿 ○評価についても研修する必要がある。
児童・生徒の姿 ○児童が学んだことを学習や生活にいかせるような授業改善を行う必要がある。